**日本技術者教育認定機構**

〒108-0014　東京都港区芝　5-26-20

(建築会館4F)

電話　03-5439-5031

FAX　03-5439-5033

E-mail　accreditation@jabee.org

自 己 点 検 書

（２．自己点検結果編）

対応基準：日本技術者教育認定基準（2019年度～）

適用年度：2022年度

高等教育機関名

プログラム名

（希望認定種別名）

（希望認定分野名）

Program Title

審査分類：新規審査／認定継続審査／中間審査

注意： 中間審査の場合、「自己点検結果」は中間審査項目についてのみ記載する

提出日　年　　月　　　日

記入上の注意

* 白色の欄にのみ記入してください。着色のある欄には記入しないでください。
* 「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。

　自己判定の指標は下記のとおりです。

　　　◎：認定基準の要求事項を高い水準で満たしている

　　　○：認定基準の要求事項を満たしており、適合の度合いを高めるための取り組みを行っている

　　　△：認定基準の要求事項を満たしているが、改善の余地がある

* 「基準への適合状況の説明」欄に、進行中の改善の取り組みがあれば、その内容も含めて説明を簡潔に記入してください。
* 「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください。なお、新規審査の場合は記入不要です。

　　　(1) 前回受審時の「Ｗ：弱点」に対する対応

　　　(2) 前回受審時の「[Ｃ]：懸念」に対する対応

　　　(3) その他の前回受審時からの改善、変更

* 「根拠資料」欄には，根拠となる資料の名称と整理番号又はWebページのURLを記入してください。
	+ - 添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
		- なお、整理番号は、添付資料と実地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：TxxとJxx）。
		- この欄に記載した資料に対応させて、添付資料編の表５及び表６の一覧表を作成してください。
		- Webページで公開されているものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明（進行中の改善の取り組みを含む） | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
| 1 | 学習・教育到達目標の設定と公開 |  |  |  |  |
| 1.1 | 【自立した技術者像の設定と公開・周知】プログラムは、育成しようとする自立した技術者像を公開し、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この技術者像は、技術者に対する社会の要求や学生の要望に配慮の上、プログラムの伝統、資源、及び修了生の活躍が想定される分野等を考慮して定められていること。 |  |  |  |  |
| 1.2 | 【学習・教育到達目標の設定と公開・周知】プログラムは、プログラム修了生全員がプログラム修了時に確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標を定め、公開し、かつ、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この学習・教育到達目標は、自立した技術者像(認定基準1.1)への標（しるべ）となっており、下記の知識・能力観点(a)～(i)を水準を含めて具体化したものを含み、かつ、これら知識・能力観点に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。1. 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
2. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解
3. 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力
4. 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
5. 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
6. 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
7. 自主的、継続的に学習する能力
8. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
9. チームで仕事をするための能力
 |  |  |  |  |
| 2 | 教育手段 |  |  |  |  |
| 2.1 | 【カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程、科目の設計と開示】プログラムは、公開されている教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づく教育課程(カリキュラム)において、各学習・教育到達目標に関する達成度評価の方法及び基準、ならびに、科目ごとの学習・教育到達目標との対応、学習・教育内容、到達目標、評価方法、及び評価基準、を定め、授業計画書(シラバス)等によりプログラムに関わる教員及び学生に開示していること。なお、教育内容に関する必須事項を、必要に応じて個別基準で定める。 |  |  |  |  |
| 2.2 | 【シラバスに基づく教育の実施と主体的な学習の促進】プログラムは、シラバス等に基づいて教育を実施し、カリキュラムを運営していること。カリキュラムの運営にあたり、プログラムは、履修生に対して学習・教育到達目標に対する自身の達成度を継続的に点検・反映することを含む、主体的な学習を促す取り組みを実施していること。 |  |  |  |  |
| 2.3 | 【教員団、教育支援体制の整備と教育の実施】プログラムは、上記2.1項、2.2項で定めたカリキュラムに基づく教育を適切に実施するための教員団及び教育支援体制を整備していること。この教育支援体制には、科目間の連携を図ってカリキュラムに基づく教育を円滑に実施する仕組み、及び、教員の教育に関する活動を評価した上で質的向上を図る仕組みを含むこと。加えて、プログラムは関係する教員にその体制を開示していること。なお、教員団及び教育支援体制に関する勘案事項を必要に応じて個別基準で定める。 |  |  |  |  |
| 2.4 | 【アドミッション・ポリシーとそれに基づく学生の受け入れ】プログラムは、カリキュラムに基づく教育に必要な資質を持った学生をプログラムに受け入れるために定めた受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を公開し、かつ、同方針に基づいて学生を受け入れていること。 |  |  |  |  |
| 2.5 | 【教育環境及び学習支援環境の運用と開示】プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、教育の実施及び履修生の学習支援のために必要な施設、設備、体制を保有し、それを維持・運用・更新するために必要な取り組みを行っていること。その取り組みをプログラムに関わる教員、教育支援体制の構成員、及び履修生に開示していること。 |  |  |  |  |
| 3 | 学習・教育到達目標の達成 |  |  |  |  |
| 3.1 | 【学習・教育到達目標の達成】プログラムは、各科目の到達目標に対する達成度をシラバス等に記載の評価方法と評価基準で評価し、かつ、全修了生が修了時点ですべての学習・教育到達目標を達成したことを点検・確認していること。この達成度評価には、他のプログラム(他の学科や他の高等教育機関)で履修生が修得した単位についての認定も含む。 |  |  |  |  |
| 3.2 | 【知識・能力観点から見た修了生の到達度点検】プログラムは、学習・教育到達目標を達成した全修了生が学習・教育到達目標に含めた知識・能力観点(a)～(i)の内容を獲得していることを、点検・確認していること。 |  |  |  |  |
| 4 | 教育改善 |  |  |  |  |
| 4.1 | 【内部質保証システムの構成・実施と開示】プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する内部質保証を組織的に実施し、かつ、その実施内容をプログラムに関わる教員に開示していること。この内部質保証の仕組みには、社会の要求や学生の要望に配慮し、かつ、仕組み自体の機能を点検できる機能を含むこと。 |  |  |  |  |
| 4.2 | 【継続的改善】プログラムは、教育点検の結果に基づいて教育活動を継続的に改善する仕組みを持ち、それに関する活動を行っていること。 |  |  |  |  |